

2014 年 5 月 5 日～5 月 7 日

大台ヶ原

M4 荒川 晶

【参加メンバー】

M4 荒川 (単独)

【コースタイム】

5/5(Mon) 行動時間 4 時間 45 分

道の駅奥伊勢おおだい 10:30～(バス)～12:00 大杉峡谷登山口

12:10 登山口～13:10-14:00 千尋滝手前の怪我人に付き添い～14:40 千尋滝前休憩所 14:55～16:20 平等嶺
吊橋南詰 16:30～16:55 桃の木山の家(小屋泊)

5/6(Tue) 行動時間 11 時間

桃の木山の家 05:30～06:00 セツ釜滝 06:15～光滝 07:20～08:00 堂倉滝 08:20～09:15 栗谷小屋付近 09:40
～11:20 日出ヶ岳 12:00～12:50 尾鷲辻(尾鷲道を歩き幕営適地を探す)13:20～13:40 大蛇嶺 14:00～14:45
シオカラ谷吊橋～15:20 大台ヶ原ビジターセンター16:30～大台山の家付近(幕営)

5/7(Wed) 行動時間 7 時間 45 分

大台山の家付近 04:10～04:50 日出ヶ岳 05:20～05:50 ビジターセンター～07:50 開拓分岐 08:15～08:50
逆峠～10:00 笹ノ峰付近 10:10～10:55 林道終点付近 11:05～11:55 小処温泉

※なお予定していた小処温泉 - 河合バス停間は温泉のスタッフが送迎してくれました。

【概要】

昨年 11 月に引き続く、「地元の山に登ろう」シリーズその 2。(※なお大峰山脈がその 1 の模様) 私の
中ではこの計画を立てるまで大台ヶ原は日帰りでの日出ヶ岳ハイキングか、台高山脈を 1 週間掛けて縦
走するかどちらかのみと考え、学生の期間に訪れることはないだろうと考えていた。

なので、今年の連休は昨年訪れなかった奥嵯道南半を歩こうと考えていたが、偶然にも 4 月上旬、た
またま書店で手に取った「山と溪谷」誌に大杉谷ルート 10 年ぶり全面復旧の記事があり、これを見て大
杉谷ルートを面白そうだなと思ったのが今回の山行のきっかけ。都合良く 2 泊 3 日きっちり予定が空い
たので、これを利用して台高山脈を東から西に抜けて小処温泉に入ろうと思い、計画書を急ぎ作成した。
幸いにも大型連休頃という年間最も晴れ間に恵まれやすい時期だったからか、初日小雨のばらつく天候
だった他は、2 日目、3 日目とも快晴と天候に恵まれ、台高山脈の雰囲気満喫することが出来た。

あと本文でも解説予定だが、大台ヶ原山頂より西大台地区一帯は利用調整地区に指定されており、入
山するためには、上北山村 HP によれば

①上北山村商工会に立入申請、および指定された口座に入山料¥1,000 振込

②数日後に立入証が手元に届く。ただしこれだけでは立入出来ない。

③これを立入当日までに持参し、大台ヶ原ビジターセンターでレクチャーを受け、立入証に押印しても
らう。

④入山日当日には立入証を常に携行のこと

の一連の手続きが必要となっており、一言でいえば信じられない位面倒くさい。ドライブウェイを経由

20〇〇年〇月〇日～〇月〇日

して多くの人が入り込むようになり、西大台地区の自然の荒廃が進むのを防ぐために、自然環境を守るためのシステムとして設定されたようだが、結果的にこれが大台ヶ原へのクラシックルートの一つである小処温泉からの登山者の通行を著しく妨げているように思えてならなかった。

【本文】

<1日目>

実家から近鉄電車乗り継いで松坂駅、ここでJRに乗り換えて三瀬谷駅まで、延べ135.9kmの列車の旅。東京駅からだと丁度甲府ぐらいまでの距離かと思う。ここから徒歩10分弱の道の駅奥伊勢おおだいへ至り、エスパール交通社の主催する登山バスに乗り。乗客は2台のマイクロバスに分かれ計19名だとか。同じ列車に乗っていた人はおらず皆自家用車か1本前の特急で来たのではと思う。

バスは宮川沿いを遡るようにして走る。1時間ほどで宮川ダム近くの休憩所で小休止。登山届を出すよう乗務員に勧告されていたので書いたが、記入欄が何処となく使いにくかった。ここから道幅が一気にせまくなり、良くこんな狭い道にバスを通したと思えるような酷道マニアにはたまらない道を30分ほど走って大杉峡谷登山口へ。ここまでの道は発電所の建設用に作られたもののようだ。

到着すると下山のバスを待っている乗客たちが東屋の軒下からわらわらと出てきた。天気の悪い日にこんな場所で長時間待つのはさぞかし大変なことだろうと感じたが、1年前屋久島で下山した時も丁度そんな感じで自分たちもバスを待ったのを思い出す。

10分ほどで支度して出発。バスの写真を撮っていたら乗務員の方に声を掛けられた。聞くに、この下りのバスに間に合わない女性の方が1名おり、登山道で見掛けたら申し訳ないが先に出発してしまったということを伝えてくれとの事。はい了解しましたと云い歩き始める。

歩き始めるとややあってこの為この道が整備されたと思われる宮川第3発電所の横を通る。ゲートを抜けて、大杉溪谷登山口に入る。すぐに岩を割り抜いて作った急峻な道になり、まだ温まっていない身体が思わずすくむ。なるほどこれが日本三大峡谷にも数えられる大杉峡谷かと納得させられるような光景。この一帯が大日峠で、峡谷の中でも最も険しい区間の1つのようだ。何枚か写真を撮りながら、幾つかの吊橋を渡り、峡谷を遡る。今回の私の装備は2泊3日用のテント泊装備だが大抵の人は1泊2日小屋泊装備。元々速く歩くことにはさほど関心がなく、当然歩みは遅いので適宜道を譲りながら歩く。

幾つかの吊橋を渡ると急峻さも一段落してきた。小一時間ほど歩いたところで、この先で滑落者ありとの情報を持って下山してくる方が1名。聞けばこの先で女性が数メートル滑落して動けない状態であるとの事。5分ほどして現場到着。本心では先を急ぎたかったがちょっと放っては置けないかなと思い、しばし付添い。同じバスで来た乗客たちのうち何名かが既に近くに来ており、ツェルトや折畳み傘を置いて行った。自分の装備も考えたが置いていけないものばかりなので、同じく付き添っていた単独行の女性の方と介抱していたご主人の方と幾つか話をして水を幾らか渡す。女性は転落して頸を捻ったらしく頭を少しでも動かすと強烈な痛みを訴える。1時間ほど経過を見ていたが状況は変化なかったので、自分たちの行程も考え出発することにした。後に気になって現地の新聞記事を探してみたところ、5/5の遭難に関しては1名が軽傷とされており、重傷ではなかったようで一安心。

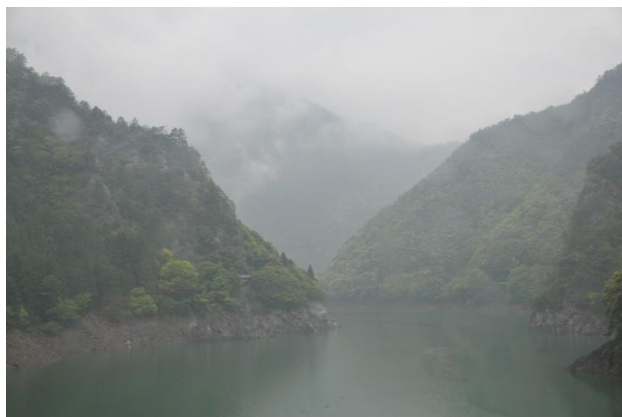
この地点から40分ほど歩いたところで対岸の見上げるような高さに滝を見る。これが千尋滝のようだ。程なくして休憩所に到着。そういえば途中で山道をえっちらおっちら下山してくる女性の方を見掛けた。これが例のバスに間に合わない乗客かしらと声をかけて見たところ、案の定そうだった。尤も本人も事

20〇〇年〇月〇日～〇月〇日

情は察していたようで、桃の木山の家で既に連絡を入れたとの事。バスは1日1便。ヒッチハイク等で拾ってもらるか、後日他の方から聞いた話だとテント装備を持っていたとのことでバス停で1泊したのかもしれない。



マイクロバス2台で大杉峡谷登山口へ。計19名が乗車。



宮川貯水池を振り返る。ややガスって小雨もパラつく。



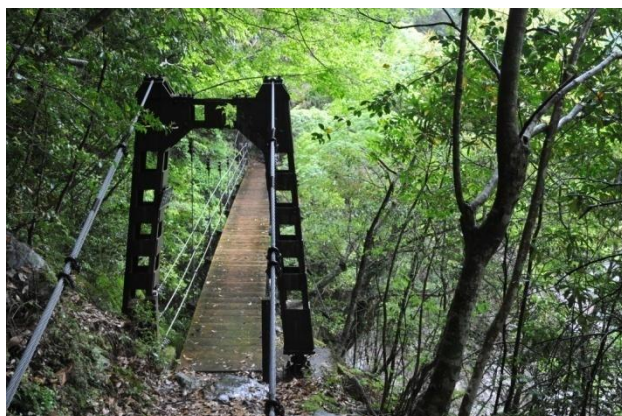
設置目的の良く分からないゲートをくぐり登山道へ。丁度下山者とすれ違う。



ゲートをくぐるとすぐに岩を削り抜いた登山道が。安全のため鎖に手を掛けて通過。



さらに鎖場のある登山道が続く。足元が湿っているので滑らないよう細心の注意を払う。



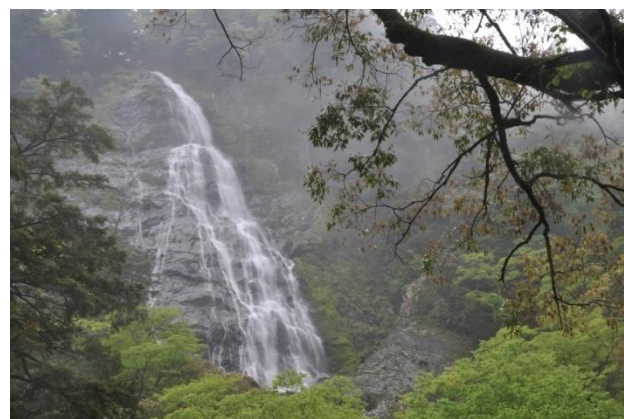
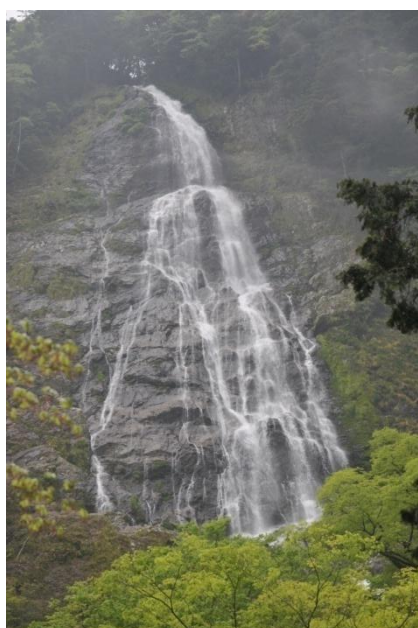
枝沢を吊橋で渡る。鎖場は始めの大日崙付近でひと段落し、やや歩きやすい樹林帯をゆく。

20〇〇年〇月〇日～〇月〇日



(上)巨岩がゴロゴロする溪谷を行く。新緑が美しい。

(右)急峻な谷間を俯瞰しながら歩く。



(左)千尋の滝。縦アングル

(上)千尋の滝。横アングル。

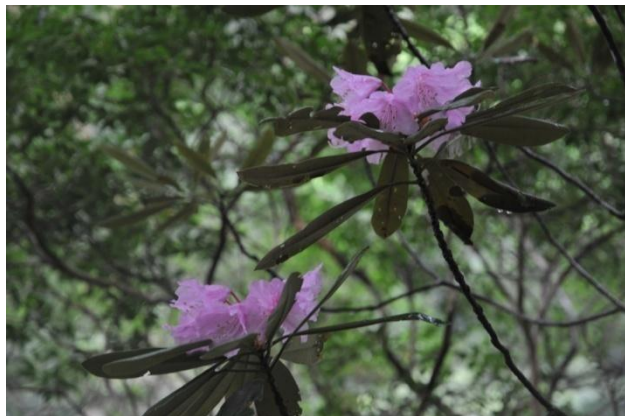
千尋滝前休憩所でしばし休息を取ったのち、徐に出発。標高もさほど高くなく気温が 15℃程度あり、雨具を付けた状態で蒸し暑い環境を歩き、汗だくになってしまったからかやや疲労を感じる。ここからさらに 30 分ほど行くと、猪ヶ淵と呼ばれる淵に向けて登山道は峡谷と同じ高さまで下る。一見穏やかそうに見える流れも大雨が降れば想像を絶するような急流が流れるのだろうなと考えながら歩く。再び谷から離れたところで左手側にニコニコ滝。このような荒々しい景観の大杉谷になぜこんな名前を付けたのか大いに疑問であるが、眺め自体は壮観。お立ち台からしばし写真撮影。

ここからさらに 20 分ほど歩くと平等峠の吊橋に。ここで初めて宮川を左岸から右岸へと渡る。吊橋途上から右手側には巨大な 1 枚岩が見上げるような高さに迫り、圧巻。確か随所に貼られている大杉谷のポスターもここで撮影された写真であったような。ここで一旦宮川から離れ、樹林帯の中の道を歩いて、小一時間ほど、桃の木吊橋を渡り、桃の木山の家に着。吊橋の対岸に見える同建物の姿は中々好ましい姿だった。

宿泊の受付をして入館。雨具も濡れていたが、汗で自分の衣類殆どが濡れてしまい少々大変だったが、併設のお風呂でさっぱり。お風呂が使えるのは珍しいが、水は豊富にあるし、燃料や食糧など必要物資

20〇〇年〇月〇日～〇月〇日

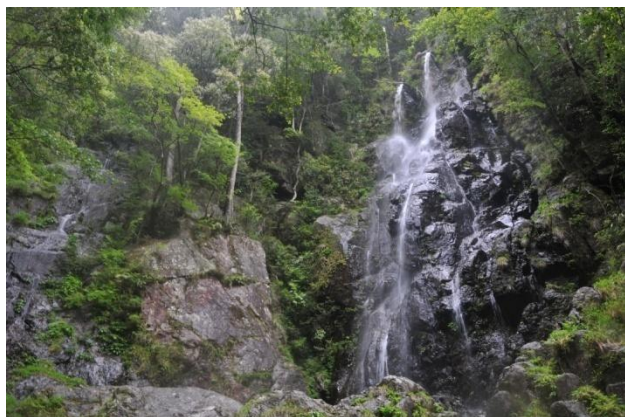
は対岸を走る林道からロープウェイを利用して運んでいるからのようだ。宿泊定員は本館別館合わせて330名との事だったが、この日は別館締切、本館も人がまばらで宿泊客は50人にも満たないぐらいではなかったろうか。お陰で快適に過ごすことが出来た。



大杉谷では稀にだがシャクナゲを見掛けた。シーズンには少し早いが、開花している姿も。



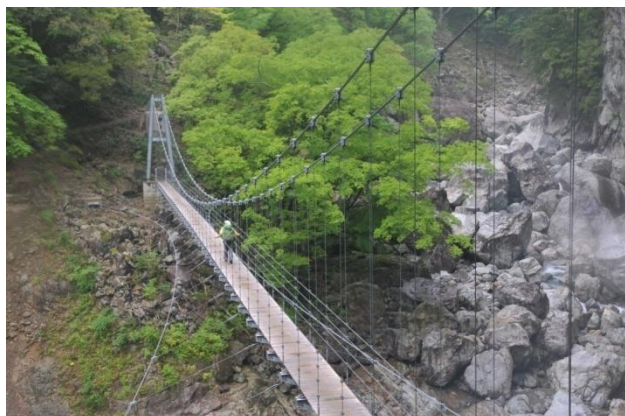
猪ヶ淵付近。これでも少し流れが和らいでいるように見える。



猪ヶ淵付近を過ぎた所の無名滝。何気なく撮影したが良い1枚になった。



ニコニコ滝を眺める。一段の滝としては大杉谷では落差が最大級ではないだろうか。



平等峠を吊橋で渡る。左岸には巨岩が聳えるが、疲れていたからかきちんとした写真は撮影出来ていない。残念。



吊橋の対岸に桃の木山の家が。建物が風景に良くマッチしており好印象な施設だった。(翌朝撮影)

2014 年 5 月 5 日～5 月 7 日

<2 日目>

今日は登山道が混雑する前に出発しようと思い、5 時前に起床、5 時 30 分頃出発した。昨日は 1 日中すっきりしない天気だったが、今日は朝から快晴のようだ。昨日は滑りやすく歩きにくかった岩場も、今日は乾燥して歩きやすい。ただ荷物が重いので注意しながら慎重に歩く。30 分ほどで展望台が見えたと思うと七ツ釜滝に到着。まだ早朝で誰もおらず、静かに鑑賞。写真を何枚か撮影。今まで幾つかの滝を見てきたが、スケールではこの滝がやはり一番なのではないかと思う。

川の左岸を巻くようにしてつけられた登山道を歩き、滝の上流側へ。浅瀬になっており、このすぐ下流に雄大な滝があるとは思えないような様子だ。このあたりで河原でござと何かをしている人を見掛けた。釣り師かなあと思う。しばらく歩いて七ツ釜滝上吊橋をクロスし、右岸に出る。ここから岩盤を削って造られたような狭い登山道を少しの間歩くと、目の前に巨大な岩がゴロゴロしているのが見えた。ああこれが大杉谷溪谷をして 10 年間通行止めにせしめた大崩落なのだなあと思う。

道は大崩落を避けるようにつけられるのかと思っていたが、崩落した岩々をそのまま乗り越える形で登山道が付けられている。最近まで復旧工事が行われていたことを示唆するかのように、岩を削った跡や楔を打ち込んだ跡、発破を掛けるために削り抜いた穴の跡などが見える。崩落地点の上流側は崩れた岩が川を堰き止め、さながら砂防ダムのような役割を果たしており、砂利が堆積して宮川本流はその下を伏流しており水の流れは見えない。突然の増水などないか少し心配ではあったが、他にもそうしている人がいたので河原に下りて崩落風景を撮影。確かにすさまじいの一言に尽きるが、この復旧工事に 10 年という時間は少々掛かり過ぎではないかとも感じた。工事主体など様々な要因があるので一概には言えないが。

ここから少し歩いて光滝。これを高巻いてしばらく歩いたところで再び左岸に渡り、その最中に眼下に隠滝・与八郎滝を見る。後者二つは登山道から全貌を上手く見渡すことが出来ず殆ど素通りしてしまった。さらに歩いたところで堂倉吊橋を渡り再び右岸に。ここで発電所に関連する施設をみてしばらく行くと堂倉滝吊橋を渡り堂倉滝に到着。これも堂倉谷の水流を全て集めて滝壺に注ぐので中々の壮観。

重い荷物を持った身ではややここまでのルートは神経を遣い疲れてしまったので少し長めに休憩。ここで大杉谷の溪谷沿いのルートから離れるのかと思うと安心できるような、一方で寂しいような思いもある。

ここから栗谷小屋・堂倉避難小屋まで尾根の直登。樹林帯の中をゆく。ペースは地図の表示よりは時間を取らないだろうと思っていたが案の定予想していたより早く 1 ピッチで林道に到着した。大杉谷沿いでは新緑が目眩しかったが、この標高になると新緑はまだのようだ。林道を少し歩いて栗谷小屋をしばし見学。朝のうちに何人かの下山客とすれ違ったが、恐らくこの辺りで宿泊していたのだろう。少し引き返して近くの水場で水を汲む。中々良い味。ここで朝七ツ釜滝付近の河原で見掛けた人と合流。しばし雑談。自家用車で昨日入山して河原でテント泊、今晚も何処かで幕営して明日大杉谷へ下山するのだとか。明日は小処温泉に下山するというと随分と渋いルートを歩くなあとの一言。はい私もそう思います。一応この一帯は幕営禁止になっているし張るのは勇気がいるけど楽しいよ、と言われて、私はそうかテントを張るのには勇気がいるけど楽しいのだなと思いました。

堂倉避難小屋まで 100m ほど引き返して登り始める。避難小屋は設備も充実しており 10 人ほどは宿泊できそう。この先シャクナゲ坂とシャクナゲ平、というあとひと月もすればシャクナゲが見頃を迎えそうな登山道を歩く。一帯は濃い樹林帯で、大台ヶ原の縞枯れの光景とは縁遠い。ようやく山頂が見えて

20〇〇年〇月〇日～〇月〇日

きたと感じられた辺りから背の低いササ藪になり、少しずつ見晴らしが良くなる。やがて目の前に物見櫓のような建物が見え、日帰りハイキング客がちらほらしだす。日出ヶ岳の山頂に到着したようだ。



(上)新緑と七ツ釜滝。3段に渡りスケール感とバランスも良い。日本百名滝の一つ。

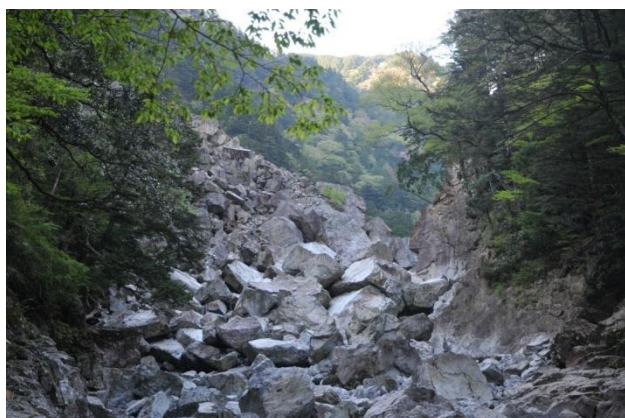
(右)縦アングルでも1枚撮影。これを眺めるためだけに大杉谷に入山する人もいるのだとか。



死亡事故多発を示唆する看板。実際あってもおかしくないなと思える箇所は何箇所もあった。



大崩落地手前の登山道。再び狭い鎖場を歩く。繁忙期には混雑して通過は大変だろう。

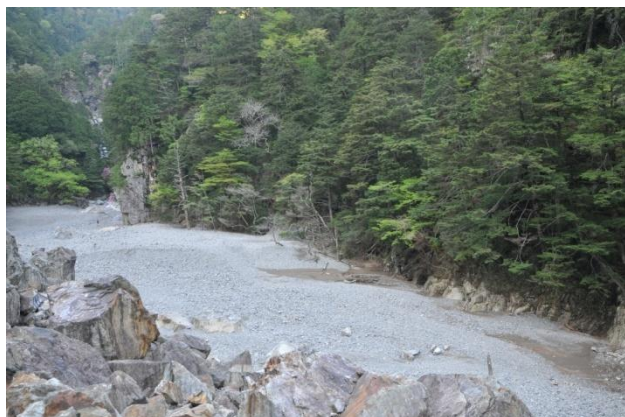


(上)下流側から大崩落地を望む。さながらダムのように、宮川本流を堰き止めている。

(右)大崩落地を進む登山道より。納得のスケール感。



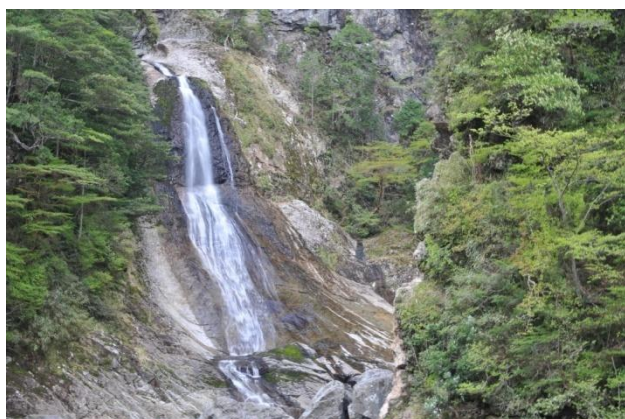
20〇〇年〇月〇日～〇月〇日



崩落地を抜ける岩場より上流側を撮影。砂礫が積り河原を形成。本流は伏流している。



河原に降りて崩落地点を撮影。山一つがそのまま崩れ落ちてしまった位の規模。



大崩落地点を越えてしばらく行くと、光滝の観瀑地点に到着。この辺りで下りの人とすれ違う。



さらに歩いて堂倉滝へ。これも姿と滝壺のブルーが美しい滝だった。



(上)堂倉滝付近にて、まばゆい新緑と発電所関係の水門と。

(右上)堂倉滝～栗谷小屋までは尾根の直登。時折休憩の適所も。

(右)栗谷小屋。人気はまばらであったが管理人らしき人が常駐していた。軽く挨拶。



20〇〇年〇月〇日～〇月〇日



栗谷小屋付近の水場。ごくごく。ここでテント泊の人としばし雑談。



堂倉避難小屋。中は広々としていて、快適に一夜を過ごせそう。



シャクナゲ坂、シャクナゲ平などの地名が続く。名前の通り一面のシャクナゲが見られる箇所も。



山頂に向けて歩く。少しずつ樹林の雰囲気が変わってゆくの分かる。

山頂到着は 11 時半前。丁度お昼どきで、日帰りハイカーで賑わっている。大杉溪谷から登ってきた充実感もあり、不思議と気にならないものだ。展望台から景色を眺めてみて始めに思ったのは、熊野灘が随分近くに見えるということ。実際直線距離は僅か 18km で、そのため海からこの大台ヶ原へと吹き上げる風が年間 4,000mm にも及ぶ多雨地域を形成しているのだとか。北面には台高山脈の山々が。目立つ山が少ないので山座同定は非常に困難。地図を広げてしばし考える。西方面には大峰山脈の山並みが広がり、こちらは展望台に解説の看板もあって分かりやすい。山上ヶ岳から八経ヶ岳、釈迦ヶ岳などの主峰が連なる姿を一望出来て心地よい。眼下には小さくビジターセンターの建物が見え、よくまあここまでドライブウェイを通したものだのと改めて実感。

風がやや冷たく感じられたので、昼食は風が凌げる場所でとって、12 時頃に出発。今日は 16 時からビジターセンターで西大台地区立入のためのレクチャーを受けることになっているが、まだ時間には余裕がありそうなので東大台エリアを一周してから向かおうと思う。やや急な階段を下りて正木嶺。この一帯がトウヒの立ち枯れが最も良く見られる場所。今は一面のササ藪だが 50 年前までは鬱蒼としたトウヒの森だったことには驚く。確か地元で良く見かける大台ヶ原のポスターもここで撮影されていたはずだ。正木ヶ原付近では再び樹林帯に入って、40 分ほどで尾鷲辻に到着。ここから南方面には尾鷲道と呼ばれる台高山脈の縦走ルートがあり、色々記録を漁っていると、ここからさほど遠くない距離に幕営適

20〇〇年〇月〇日～〇月〇日

地があるようだったので、それを確認しに歩く。行きはルートを見失い 15 分ほど掛かったが、帰りは 10 分も掛からず戻って来れる距離に確かに平坦地が存在。候補の一つにしておこうと思って再び尾鷲まで戻る。再び良く整備された道を日帰り装備の人たちと歩き、牛石ヶ原を經由して大蛇ヶ嶺の分岐へ。ここで荷物を置いて、10 分ほど歩いて大蛇ヶ嶺へ到着。確かに事前に調べていたのと同様のダイナミックな展望が眼下に広がる。対岸の竜口尾根の眺めも素晴らしい。後ろで黄色い声を上げている数々の人を尻目に、写真の邪魔にならぬよう鎖ギリギリ手前まで行って静かに展望を楽しむ。帰り掛けに栗谷小屋付近で話をしたテント泊の人に遭遇。再び大蛇ヶ嶺への分岐点まで戻り、荷物を背負ってシオカラ谷まで若干の下り。30 分ほどで谷間に降りる。吊橋付近では河原に降りて遊んでいる人もいた。少し休憩しても良かったのだが、時刻は 14 時半を過ぎていたのでそのまま通過して登り返す。

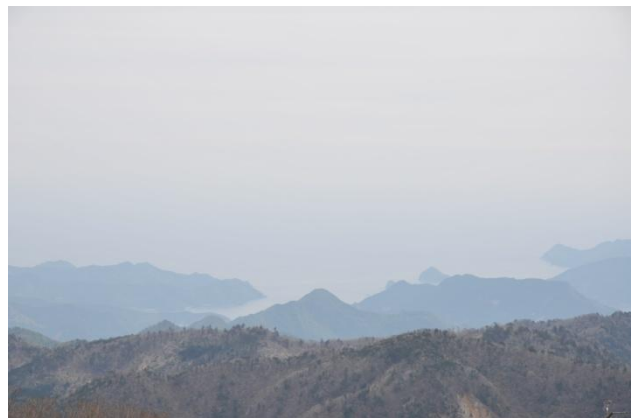
大台ヶ原付近には、心・湯治館という宿泊施設があるが、素泊まりは一切認めておらず、HP を見ても登山者向けの施設ではない様子。わざわざ時間を掛けてきた山上で、高い宿泊料金を払って泊まるのも嫌なので【※意見には個人差があります】幕営することに決めていた。幕営は勇気があるよとの先程のおじさんの言葉を思い出し、勇気をもって幕営出来る場所を探していると、何箇所か良さそうな場所があったので目星をつけてビジターセンター付近へ。近くの売店でうどんを食して時間を潰す。丁度大和上市へ向かうバスが出発待機中だったので撮影。

開始時刻の 5 分ほど前にビジターセンターへ。前日入りしてレクチャーを受ける人は、60 代ぐらいの男性の方がもう 1 人。聞けば自分と同じ行程を 2 泊 3 日で歩いているのだとか。明日は誰にも会わないだろうと思っていたが驚きだった。相手方(以下、習志野さんと表記)も同じく驚いたのではないかなと思うが…。レクチャーは利用調整地区の説明と、地域一帯についての簡単な説明と注意点といった風で、主に日帰り登山客に主眼を置いたものになっていた。めぼしい情報は、早朝(と恐らく夕刻)に歩けば巡視員に出会わない可能性が高いことと、巡視員は 3 人(!)もいて、日中巡回していると云うこととか。人数制限は時期によって 30 人～100 人/Day とまちまちだが、1 人か 2 人しか入らない日もあれば、枠ギリギリまで入山者がある日もあるとのこと。因みに、明日は私と習志野さんの 2 人だけのようだ。

30 分弱のレクチャーを受けてこの日の行程は終了。目星をつけていた場所でテントを張り夕食。ビジターセンター付近には水場はなかったのでトイレの水を汲み、念のため煮沸して明日の行程に備えることにした。思いのほか夕陽が綺麗で、これなら頑張って日出ヶ岳を往復すれば良かったなあとと思うほどだった。駐車場では車中泊をする様子の自動車が何台か泊まっていた。明日は日出ヶ岳山上でご来光を拝もうと思っていたので早めに就寝。

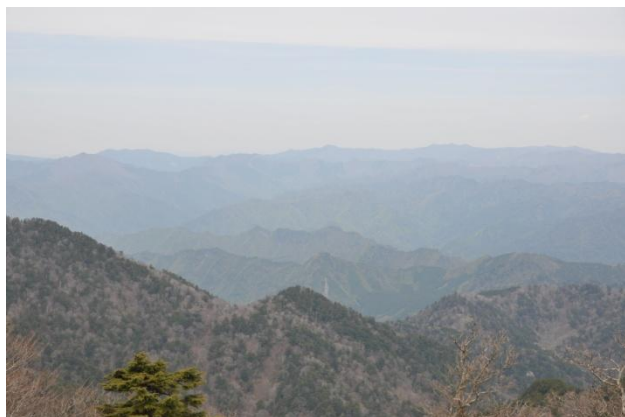


日出ヶ岳山頂は展望台が設置されている。



山頂について始めに感じたのが、熊野灘と尾鷲の町が近いこと。霞んでいるが海も見える。

20〇〇年〇月〇日～〇月〇日



北面に広がる台高山脈の山並み。山座同定は困難を極めた。



西面には大峰山脈が広がる。おおよそ大普賢岳から釈迦ヶ岳の山並みを一望。



正木ヶ嶺付近のトウヒの立ち枯れ光景。大台ヶ原といえばこの光景を想像する人が多いのではないだろうか。



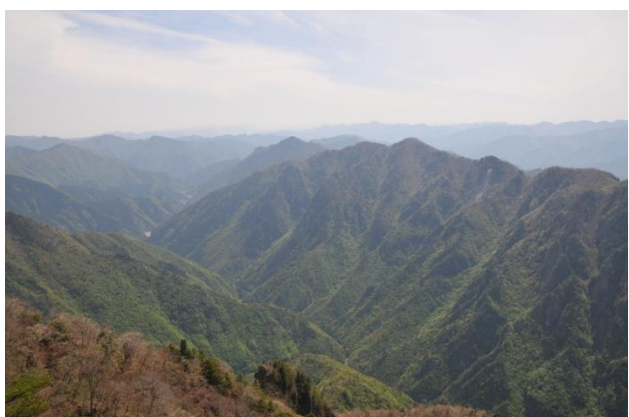
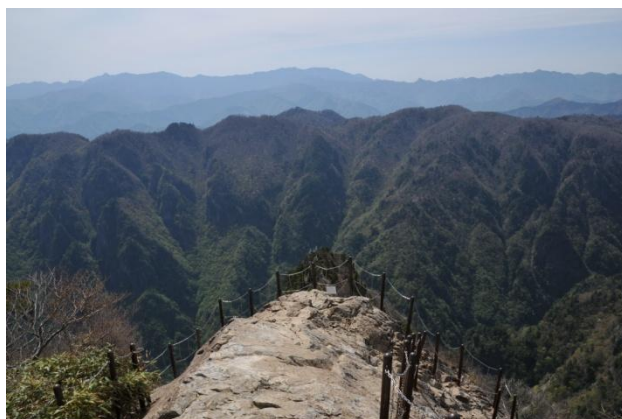
正木ヶ原方面へ向けて歩く。立ち枯れが次第に広がっている様に見える。



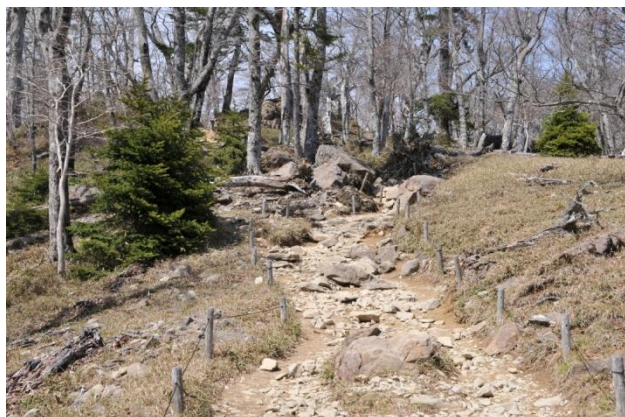
尾鷲道での一幕。尾鷲辻を出発してすぐに、上北山村の看板があった。

(右上)大蛇峠より西面。竜口尾根の展望が素晴らしい。

(右下)やや南面に視線を移して撮影。竜口尾根の向こうに紀伊半島の山並みが連なる。



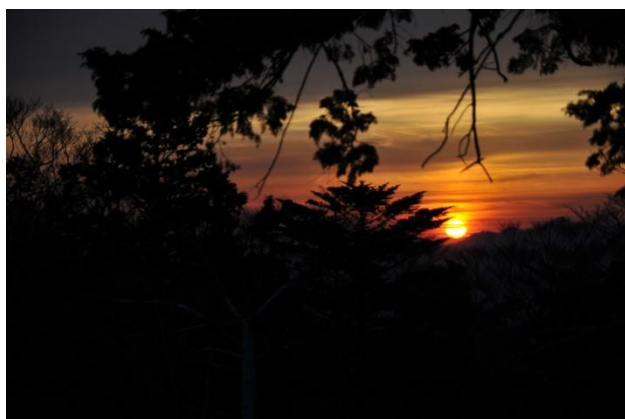
20〇〇年〇月〇日～〇月〇日



東大台エリア一体の道は総じてよく整備され歩きやすい。



夕刻。大台ヶ原駐車場にて。四角い建造物がある
とついつい写真を撮ってしまう。



木々の間から夕焼け。大峰山脈に陽が落ちる。日
没直前に雲を抜け、幻想的な光景に。



多くの車で賑わっていた駐車場も、僅か数台を残
してガラガラになってしまった。

<3日目>

この日は山頂でご来光を見るため3時起床。簡単な朝食を採り、テント一式を畳んで4時過ぎに出発。既に東の空は明るくなり始め、夜空の星も大半が既に見えなくなっていた。

この日は昨日歩いていない駐車場から日出ヶ岳へのルートを歩く。歩き始めて少ししたところで三脚を担いだ下山中のおじさんに遭遇。きっと星空の撮影をしていたのだろうと思う。行程の半分ほど来たところで地図に載っていなかった水場を発見。手ぶらで来てしまったので勿体ない事をしてしまった。

40分ほど歩いて山頂に到着。誰もいないかと想像していたが既に先客が2名。実際この日は下界でも寒かったらしいが、4枚重ね着してきても風が冷たい。展望台で風が凌げる場所に入って日の出を待っていると10分ほどしてご来光。東の空に僅かに雲が掛かりちょっと残念ではあったが、時間が経つにつれて西の大峰山脈にも次第に日が差してくる雰囲気良かったのでよしとしよう。

セルフ記念撮影をして足早に下山開始。30分ほどで再び駐車場に戻り、荷物を背負い直して出発。立入調整地区の西大台地区へと踏み込む。歩き始めて感じたのは確かに植生が東大台地区とは違うなということ。トウヒの存在が目立つ東大台とは違い、この一帯はブナなどが目立つ。北海道を命名した松浦武二郎の碑を眺めたりしながら、1時間ほどで池のない七ツ池へ。ここで小休止を取ってしばらくゆくと昔修行僧による開拓が試みられたが地質が貧しく断念したのが由来の開拓跡へ。この辺りは一面のバイ

20〇〇年〇月〇日～〇月〇日

ケイソウがあり、花が咲けば綺麗なのだろうなと思いながら歩く。15 分ほどして開拓分岐点へ。ここから別ルートでビジターセンター方面へ戻ることも出来るので、日帰り登山の場合は行き帰りで別ルートで往復できるのだとか。この付近で習志野さんと遭遇。朝 04:30 に出発してきちんと別ルートの方まで周回してきたのだとか。私はこの近くにある吊橋を眺めてすぐに引き返すことに。

開拓分岐点から 20 分ほどで展望台。大蛇岨・シオカラ谷の眺めが良いが、逆光なので写真写りはまいち。午後に来るのが正解だろうと思う。さらに少し歩いて逆峠のゲートに到着。小処温泉側から入山する場合でも事前の立入証の取得が必要であるので、逆ルートでの入山は非常に困難だろうと想像する。現に地元の山岳会の記事で、逆峠まで来たけど日出ヶ岳方面へは行けないのでここで引き返します、との趣旨のことを述べられており、地元の人にとっても相当扱いにくいシステムのようなのだ。

ここから一旦等高線沿いに歩く道が続き、途中崩落のため尾根まで登り返し。その後笹ノ峰から伸びる山塊の中腹を等高線沿いにずっと歩き続けるコースになる。やはり小処～大台のアクセスが悪くなったことが影響しているのか、西大台地区や、そのほかのルートと比べても明らかに道が悪く、所々崩落気味の地点もあった。だんだん退屈してきたので途中の適当な地点で尾根まで登り返すことに。勾配は少しきつかったが 10 分もしないで稜線に出た。ここは又剣山・竜口尾根からの縦走ルートがあり、今までのルートよりむしろ歩きやすい位だった。周囲の地形などを確認しながら現在地を確認。笹ノ峰の手前のピークに出たようだ。大台方面の展望は樹林に覆われ望めなかったものの、大峰山脈の展望が素晴らしくしばし嘆息し、将来時間があればこの小処～又剣山ルートも歩いてみたいものだと感じた。

10 分もたたずして笹ノ峰に到達。地元（とは言っても和歌山県新宮市）の山岳会がお手製の看板を作っていて微笑ましい。降りる方向には少し不安を感じたが踏み跡やテープなどを確認しながら歩くとやがて先程の本道に合流した。ちょっとした寄り道だったが良い展望が得られて良かった。ここから人工林らしい杉林の中を 20 分ほど歩いて林道小処線の終点に。道なりに少々歩くと木和田方面へのルート分岐点。現在は通行止めとのことだが割と最近歩いた様な足跡が気になった。ひょっとして習志野さんかしらと思い、この近くで休憩していると木和田方面から足音が聞こえてきて、やってきたのはやはり習志野さん。私と違って温泉に拘りはなく、木和田に下山すべくルートを歩いてみたものの途中で分からなくなり引き返してきたのだとか。

少し出発のタイミングをずらして小処温泉方面へ最後の 1 ピッチ。とてつもないヘアピンカーブを繰り返す林道を何度かショートカットしながら杉林を急下降する。途中の林道との合流点では 5 分ほど林道を歩く区間があり、途中で登山道の下降点を見落としと勘違いして引き返して若干時間をロスしたが、それでも 1 時間弱で無事に今回の最終目的地である小処温泉の目の前に下山することが出来た。

さて温泉にと思ってフロントに入ると習志野さんと従業員のおじいさんが話しかけてきて、どうやら河合バス停まで¥1,000 で送迎してくれるのだとか。3 秒間考えて答えは「お願いします。」¥1,000 とは絶妙な商売だなあと感じながらも、地元奈良県だし悪い気はしない。

バス停まで 2 時間ほどは掛かると想像していたのでこれで随分時間ができた。温泉にのんびりついて、併設の食堂で昼食。ここには本当に温泉 1 軒の他何もないが、大台ヶ原から直接道路が通じているからか、思いのほかライダーやドライブ客の出入りが多く賑わいを感じた。

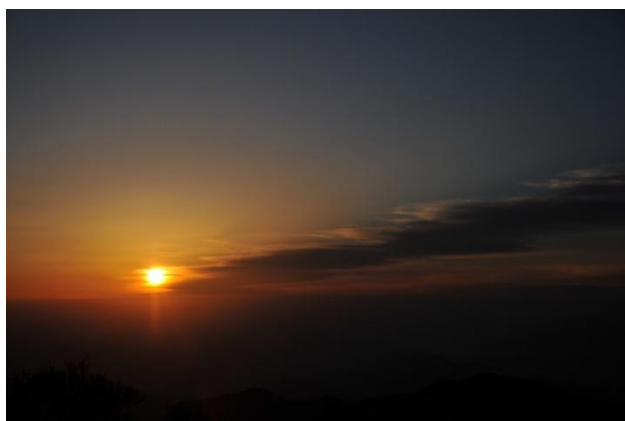
水が良いらしいのでペットボトルに詰めさせて頂き、13 時半ごろに出発。20 分ほどで河合バス停まで送ってもらう。小処温泉への登山客は西大台地区の立入整備前は年間 2,000 人ほどはいたのが、整備後は一気に減少して年間 100 人足らずになってしまったのだとか。ただビジターセンターのスタッフや巡

20〇〇年〇月〇日～〇月〇日

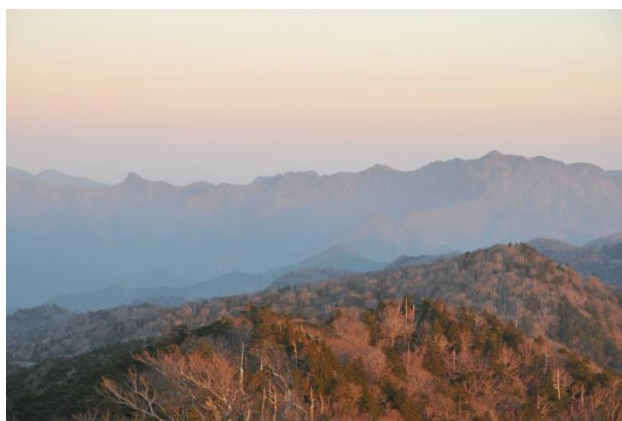
視員の雇用などもあって是非を一概に論じるのは難しいようだが、とにかくあの一体の整備に国家スケールで予算が使われているのは間違いないようだ。

バス停近くには道の駅併設の上北山温泉があり、あわよくば温泉をハシゴ出来るかなと期待していたが事前のリサーチ通り生憎この日は休業。幸いにもきちんとした待合室のあったバス停で、習志野さんと北山川の河原に降りてみたり、お気に入りのカフェオレを沸かしたりして1日2本のバスを待つ。

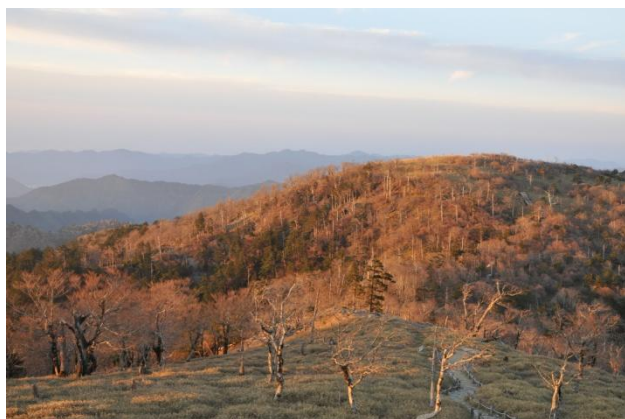
1時間半ほど待ち時間があつたが、不思議と長いと感じることもなく15時20分頃、定刻より数分遅れて地元奈良交通のバスが到着。大和上市まで途中乗換えを含む2時間弱のロングライド。小処温泉のスタッフのおじいさん曰く「乗ったことがない」同バスだが、途中でちょくちょく登山客を拾うので、さながら登山バスの雰囲気。途中で一度乗換え、大和上市駅に到着。日帰り登山だけではない、地元の太台ヶ原の魅力を楽しむことが出来て充実した3日間だった。



東の空から太陽が昇る。これだけでは何処から撮影したのか分からないが…



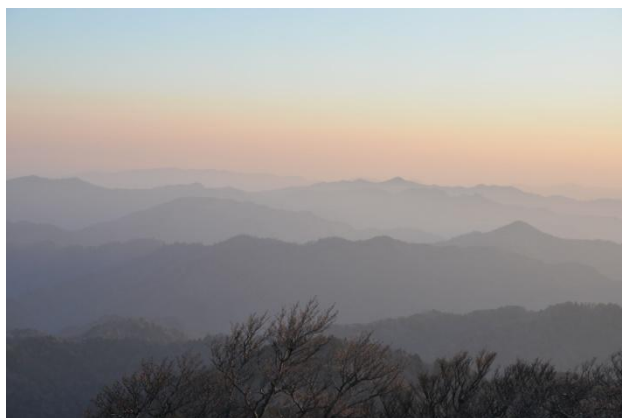
西の大峰山脈に朝の日差しが当たる。昨年歩いた大普賢岳～行者還岳付近の稜線。



(上)さながら紅葉のごとく紅く染まる、足元の木々。1日のうちほんの一瞬だけの色合いだ。

(右上)そんな色合いに自分も染まってみようと記念撮影。三角点とともに。

(右)北面の山々。やはり山座同定は難しい。が、朝焼けの空の色が綺麗だったので1枚。



20〇〇年〇月〇日～〇月〇日



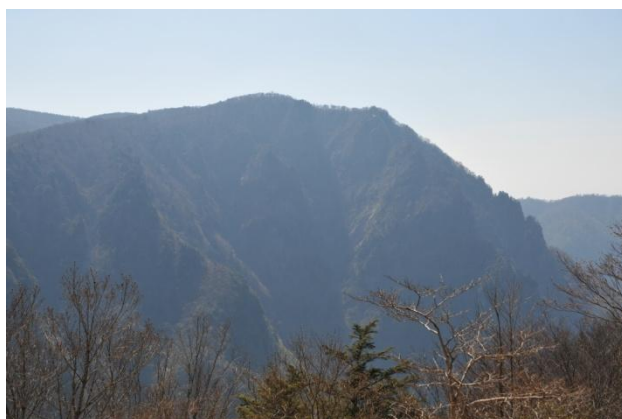
西大台地区の入口。足元のマットは外部からの植物の種の侵入を防ぐためとのこと。うーん



開拓跡辺りではバイケイソウの群落が。花が咲けば美しい光景になるだろう。



開拓跡付近。ここで修業に励もうとした先人たちの想いを少しだけ想像。



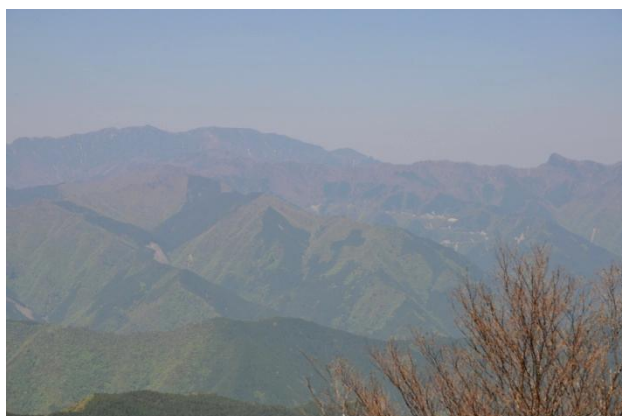
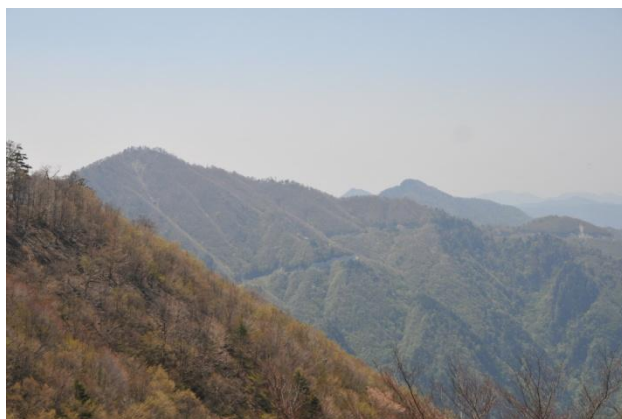
展望台から大蛇ヶ岳方面を展望。中央寄りが大蛇ヶ岳。光線が悪い。



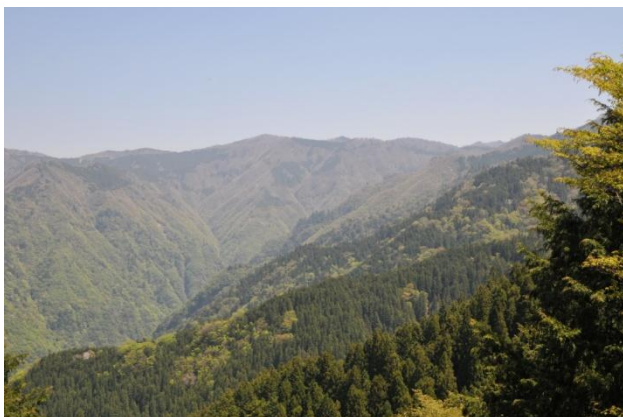
(上)小処方面へ向かう登山道は所々崩落気味の箇所も。通る人も少ないのだろう。

(右上)筧ノ峰付近ピークより、又剣山(左)。大台ヶ原と大峰山脈を一望できる好展望地のような。

(右)同地点より八経ヶ岳(左奥)・弥山(そのやや右)・右寄りのピークが行者還岳。足元の山並みの新緑も美しい場所だった。



2014年5月5日～5月7日



林道に出てしばらく歩くと時折展望地が。小椽谷右俣と、上流に経ヶ峰。ドライブウェイもうっすらと見える。



小処温泉まで急斜度の道を下る。登りで使うには辛そうな道だ。



歩いていると作業中のトラックが追い越して行った。上部は自動車の侵入は難しそうだったが中腹は舗装されていて現在も使われているようだ。



小処温泉に下山。新緑がまぶしい。ここで湯に浸かり、山行の疲れを癒した。